26Q-pm212

知的障害者施設における薬使用状況に関するアンケート調査

○菰田　綾佳[1], 島　和嗣[2], 久保　光平[3], 畠山　貴博[4], 小松　知貴[5], 大垣　旭[5], 澤田　采佳[6], 小松　直登[7], 木村　壮太郎[8], 西野　ゆり[9], 林　優樹[10], 西野　正雄[11], 宮本　如奈[12], 高倉　弘士[13], 畠山　有理[14], 畠山　光弘[15]（[1]関西福祉科学大, [2]金剛高校, [3]四天王寺羽曳丘高校, [4]初芝富田林高校, [5]河南高校, [6]西浦高校, [7]東住吉高校, [8]藤井寺高校, [9]長野高校, [10]富田林高校, [11]早稲田大, [12]同志社大, [13]立命館大, [14]長崎大, [15]畠山獣医科）

「はじめに」: 知的障害者授産施設は、高校以上の知的障害者を対象としてクッキー等地場品製造販売や、老人ホームの清掃活動等を通し、社会復帰を進める施設であるが、薬の使用に対して使用上の問題点がないかを検討した。

「方法」: 大阪南部に存在する知的障害者小規模授産施設Ｔにおいて、所長の協力のもと知的障害者の方々を対象として、薬の使用上の問題点に関してアンケートを実施した。

「結果」: 対象とした施設は知的障害重度から中度の方々がその中心をなし平均年齢は３７才の母集団である。何らかの薬を服用されているかたが全体の４２％を占めており、薬の使い回しや、あまりの薬の廃棄に関してはまったく問題は見られなかった。しかし、何らかの薬を服用されている方の６２％はきっちりと服用指導に従っておられたが、時々薬の服用をとばされる方が３８％存在した。また、服用している薬が有効か否かに関しての質問に対し、不明が２５％、効果ありが３８％それに対して、どちらかというと効果がないという回答をされた方が３８％存在した。この方が服用している薬は抗不安、振せん麻痺やマイナートランキライザーを服用されている方が中心であった。効果ありと回答された方々は、高血圧治療薬、不整脈治療薬、痛風治療薬という効果が比較的明確な薬剤服用であった。中には潜在的なてんかんの危険性から、２種類の薬剤を他の抗不安薬と共に投与を受けているが、発作経験がないため、薬服用に効果がないと判断し、服用間隔をとばすケースも見られた。薬剤師に対しては、錠剤剤型変更や他種類の服用問題など相談し、十分な満足度を達成しているが、効果が明確でない薬剤に対して、その必要性を十分説明し、服用間隔を遵守する指導が必要と考える。